

書 評

SDGs 達成に向けたネクサスアプローチ ―地球環境問題の解決のために―

谷口真人編

出版社：共立出版 発行年：2023 年 2 月 28 日

価格：2,900 円＋税 ISBN：978-4-320-00613-3

「ネクサス」とはつながりであり、「ネクサスアプローチ」とはつながりを意識した課題解決への接近のことである。つながる対象は、時間軸、空間軸、主体軸、資源軸などで整理される様々な要素である。この広範で、重層的で複雑なつながりの中から、本書では、SDGs、地球温暖化、生物多様性、水資源、窒素といった側面から他の課題や他の資源とのつながりを解説している。持続可能性の 3 側面でいえば、環境側面での課題を切り口として、それと他の環境側面の課題とのつながり、さらには経済側面や社会側面の課題とのつながりを扱っている。貧困や紛争、ジェンダー等の社会側面での課題、あるいは地域の縮小による放棄や林業の衰退等のローカルな課題を中心的な課題としていない点において、本書は研究母体である「総合地球環境学」の主眼とする領域での「ネクサスアプローチ」の知見を包括したものである。

「ネクサスアプローチ」が必要とされる理由は、本書の内容から 4 点である。第 1 に、課題間のトレードオフ（二律背反）が生じる場合があり、その解消の知恵が必要となる。第 2 に、課題間でシナジー（相乗効果）を生じる場合があり、負のフィードバックの連鎖を断ち切り、正のフィードバックの連鎖を生み出す知恵が必要となる。第 3 に、直接関係がないようにみえる課題間にも間接的なつながり、あるいは根本的問題の共通性からくるつながりがあり、その解明と可視化、対策が必要である。第 4 に、課題のつながりがわかっているにも関わらず、「個別バラバラに取り組みが行われている」からである。

本書の構成と要点について言及しよう。第 2 章から第 9 章では、個別の課題におけるつながりを解説している。課題ごとに、つながりの解明の深度や政策への踏み込みの程度の違いがあるが、「ネクサスアプローチ」の観点から同じ土俵にあげたことが有意義である。また、編者が執筆している第 1 章と第 12 章の一般化した理論枠組みが、各分野における今後のネクサス研究の推進方向を示唆する。第 1 章では、「ネクサス」という概念が、相関関係、因果関係、テレコネクション、システム・ダイナミクス、さらにはテレカップリング、ヴァーチャル・コネクション、フットプリント等を含むという整理をしている。第 12 章では、「ネクサスアプローチ」として、①人の生き方と地球環境をつなぐことによる人の意識と行動の変容、②地球と地域をつなぐことによる制度と社会の変容、③自然環境と人間社会をつなぐ共創による人・社会・自然の関係性の変容という 3 つを提案している。これらのアプロ

一チの具体的な確立と普及に向けて、さらに政策現場と連動した実践研究の推進と発信が待たれる。

武蔵野大学工学部サステナビリティ学科 白井信雄